

ファン心理によるカープ女子の分類

向居 暁

(県立広島大学人間文化学部)

目的

2013年9月に「NHK ニュースウォッチ 9」がカープファンの特集を組んだ際に「カープ女子」という表現が用いられて以降、「カープ女子」という言葉は様々なメディアに取り上げられ、2014年には新語・流行語大賞の年間トップテンに選ばれるまでに至った(清水, 2015)。この「カープ女子」という言葉の定義は、「プロ野球セ・リーグの広島東洋カープを応援する若い女性ファンのこと」(集英社, 2017)、「広島東洋カープを熱烈応援し、スタジアムを真っ赤に染める女性ファンのこと」(清水, 2015)、「ただカープが好きで応援している女子たちのことを指すのではなく、それを積極的に行動で示す人たちのこと」(迫, 2015)など、カープファンとしての熱狂度と「女子」と評される女性ファンの年齢層とによって微妙に異なるようである。そこで、本研究では、向居他(2016)のファン態度尺度を用いて、女子大学生を対象として、カープ女子の分類を行うことを目的とした。

方法

調査対象者 女子大学生 170名 ($M=20.00$ 歳, $range=18-22$ 歳, $SD=1.00$ 歳)であった。

手続き 調査対象者には、向居他(2016)のファン態度尺度(①熱狂・熱愛, ②作品への評価, ③外見への好意, ④目標・共感・同一視, ⑤ファンコミュニケーション, ⑥流行への同調の 55 項目)、及び、ファン行動尺度(①一般的ファン行動, ②積極的ファン行動の 19 項目)に基づいて作成されたカープファン態度項目とカープファン行動項目に回答を求めた(6件法)。また、カープファン歴、予備調査によって選出された広島東洋カープに関する問題(佐藤, 2017)などにも回答してもらった。

結果と考察

カープファンであると回答した調査対象者は約 34%であった。調査対象者を分類するために、ファン態度の 6 因子に基づいてクラスタ分析(Ward 法)を行った。その結果算出されたデンドログラムをもとにして、5つのクラスタで分類するのが妥当であると判断された。また、クラスタの命名に際しては、カープの知識、及び、ファン

行動の各因子の平均点も考慮された。

第1クラスタ(41人)は、最も人数が多いクラスタであり、約7割がカープファン(ファン歴: 約64ヶ月)であると回答し、すべての因子の値が平均値以上であった。また、カープの知識も平均以上あり、各ファン行動も平均以上であった。したがって、このクラスタは、中間的ファン層と考えられるため「代表的カープ女子」と名付けられた。第2クラスタ(17人)は、全員がカープファン(ファン歴: 約95ヶ月)であると回答し、ファン態度のすべての因子において、全クラスタで最も高い数値を示した。また、カープの知識も最も豊富で、ファン行動も伴うことから「熱狂的カープ女子」と名付けられた。第3クラスタ(37人)は、約6割がカープファン(ファン歴: 約23ヶ月)であると回答したが、「作品の評価」以外では平均点を下回り、ファン行動も平均点以下であった。しかしながら、カープの知識は平均以上であったため、「消極的カープ女子」と名付けられた。第4クラスタ(34人)は、全体的にファン態度因子の平均点が低く、カープの知識もなく、ファン行動も伴わない。しかし、「流行への同調」の因子のみ平均値よりも高かったことから「にわか系カープ女子」と名付けた。第5クラスタ(41人)は、カープファンと答えたのは0人で、ファン態度尺度のすべての因子において最も点数が低かったこと、カープの知識もなく、ファン行動も伴わないことから、「カープ無関心女子」と名付けられた。

前述したカープ女子の定義から、本研究で明らかになったカープ女子の分類を考察すると、例えば、清水(2015)、及び、迫(2015)の定義にあてはまるファン層は、熱狂性、及び、ファン行動を伴うファンと考えられるため、「熱狂的カープ女子」のみであるといえるだろう。

「カープ女子」という言葉の日常的な用途を考えると、今後は様々な年代を対象にした研究を実施する必要があると考えられる。

主要引用文献

向居暁他(2016). ファン態度とファン行動の関連性, 高松大学研究紀要, 64-65, 233-257.